

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 美星町観光協会

記入者名： 小川 貴史

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：38,437人、将来：34,246人（2030年）、28,172人（2045年）
- 井原市第7次総合計画 美星産直プラザ来場者数 416,238人（2019年）→481,000人（2022年）
- 第2次井原市環境基本計画 美星地区の夜空の明るさ 21.03等級（2020年）→20.6等級（2025年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- 光害対策の取組：星空継続観察による環境把握、自然体験・環境教育の推進（観光協会・天文関係者、NPOほか）
- 有償観光ガイドの養成講座開講：美星の星空を語れる星空ガイドの養成（観光協会・市・天文関係者ほか）
- 体験型観光コンテンツの開発：長期滞在と関係人口の創出につながる商品開発（観光協会・住民・旅行会社ほか）
- 6次産品（土産品）の開発：星の郷ブランドの商品開発（観光協会・商工団体・JA・生産者ほか）
- 星空ブランドの深化：シンポジウム・観望会の開催、美しい星空の発信（観光協会・市・天文関係者・NPOほか）

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

●美しい星空環境を守り育てる地域

美星町は国内で「光害」が一般的でなかった時代から、最先端の夜の環境配慮型社会の実現に取り組んできた。国内初の光害防止条例制定から30年が経過した今、より厳しい世界基準での評価を受けるべく、アジア初の「星空保護区・コミュニティ部門」の認定を目指しており、認定が実現したならば、周辺の模範となる地域として、国内や世界にこの優れた取組を発信していくとともに、次世代に美しい星空環境を継承していく。

また、星空のブランド価値の向上と取組への共感により、都市部からの人と金の流れが増え、想いを持った地元の人たちがガイドとして活躍することで、関係人口の創出が図られる。

ツアー開発や商品開発など、新たな取組に果敢にチャレンジしていく気風も生まれ、地域経済の維持・拡大はもとより、住民の郷土への誇りと愛着が醸成され、若者をはじめ様々な人たちが定着する。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	光害対策の取組	星空継続観察の登録地点	1	1	1	地点
	光害対策の取組	星空学校講座開講数	0	0		回
	※「星空学校講座開講数」については、来年度実施予定であるため、現状では実績値0					
経済	外貨の獲得	体験型観光ツアーの実施件数	0	0		回
	外貨の獲得	星の郷ブランド商品開発件数	0	0		商品
	※「体験型観光ツアーの実施件数」については、現在検討中であるため、現状では実績値0					
	※「星の郷ブランド商品開発件数」については、現在検討中であるため、現状では実績値0					
社会	地域の魅力度向上	星空ガイド養成講座回数	0	0		回
	住民の誇りの醸成	メディア掲載回数	20	30	30	回
	※「星空ガイド養成講座回数」については、来年度実施予定であるため、現状では実績値0					

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	光害対策の取組	夜空の明るさ	21.03	20.6	2050年度	20.6	等級
	光害対策の取組	環境ボランティア数	0	0	2030年度	200	人
経済	外貨の獲得	体験型観光ツアーの売上額	0	0	2030年度	50	百万円
	外貨の獲得	星の郷ブランド商品販売額	0	0	2030年度	30	百万円
社会	関係人口の創出	美星町観光協会会員数	672	672	2030年度	1,000	会員
	住民の誇りの醸成	星空環境保護に誇りを感じる割合	77	77	2030年度	90	%

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

美しい星空環境を守り育てる地域を目指すには、まずもって光害の影響のない、良好な大気環境や美しい星空が維持されていることを長期的に数値把握することが必要。このため、多くの参加者を募って町内での観察を行い、前年と比較して数値が悪化しないよう維持していくことで、美しい星のまちとしての価値向上につなげる。また、星空学校を開講し、地元住民はもとより、域外からの参加も受け入れ、光害対策の取組の理念や活動を伝えていくことで、学んだ人たちが域外での光害啓発活動の先導役となる環境ボランティアが育成される。こうした取組を対外的に発信することで、社会の関心を高め、住民の郷土への誇りの醸成を図る。

地域の魅力を語れる星空ガイドを養成し、地域資源を絡めた体験型観光ツアーを実施するとともに、星の郷ブランドの商品開発を進め、域外からの収益増を実現する。特別なおもてなしを体験いただくことで、関係人口（美星を好きになってくれるファン）の増加を図る。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください